

---

# おじいさんとたぬき

鰯頭

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おじいさんとたぬき

### 【Nコード】

N3573C

### 【作者名】

鰯頭

### 【あらすじ】

ひとりさびしく暮らしていたおじいさんの家に、ある日一匹の子だぬきが来ます……日本昔話風小説です、気楽に読んでみてください。い。

むかし、むかし、あるところにおじいさんが一人さびしく暮らしておりました。

今日もおじいさんは一人さびしく食事をしていると、トントン、トントン、と玄関を叩く音が聞こえてきました。

「はて、だれか訪ねてきたのかのお？」

おじいさんは玄関を開けました、しかしそこには誰もいません。外は雪がしんと降っています。

「わしの勘違いじゃったのかのお……」

おじいさんは残念そうに言って、扉を閉めようと思いました。すると、「待つてください」と声が聞こえてきました。

おじいさんが声のした方を向くと、そこには一匹の子だぬきがいました。

「親とはぐれて、道を歩いていたら雪が降ってきたんです。雪が止むまででいいんです、どうかここで温もらせてくれませんか？」とても寒かったでしょう、子だぬきの体はぶるぶる震えています。

「いつまでも、おつたらええ。外は寒かったじやろくに。さあ、中にはいりなさい」

子だぬきはペコリとおじぎをし、おじいさんの家に入ってゆきました。

おじいさんはまず雪でぬれた子だぬきの体をふいてやり、あたたかく、おいしいごはんを食べさせてあげました。

子だぬきはお礼にとおじいさんにいろいろな話をしました。たとえば地蔵に化けて人間からお供え物をもらったとか、隣の山のキツネの子供と化かしあいをしたとか……

子だぬきの話をおじいさんはうれしそうに聞いていました。

しばらく子だぬきの話を聞いていると、再びトントンと玄關を叩く音が聞こえてきました。

おじいさんが扉を開けると、そこには女の人がいきました。

「ここにうちの子が来ていないでしょうか？」

女の人が尋ねました。

「人間の子はしらんのお、たぬきの子なら来ておるのじゃが……」

おじいさんが答えると、子だぬきが「おかあちゃん！」と言って女の人に駆け寄っていきました。

女の方は子だぬきを見るとホッとした顔をして、みるみるうちに毛むくじやらになっていきます。

なんと女の方はたぬきが化けていた姿だったのです。

「本当にありがとうございます。このお礼は何といったらいいのか……」

「いいんじゃないよ、わしも久しぶりにたつぷりと誰かと話せてうれしかったしのお」

母親だぬきは深々と頭を下げてお礼を言い、子だぬきを連れて雪の中に消えてゆきました。

その日からおじいさんの家には毎日、客が来るようになりました。

客といっても人ではなくたぬきなのですが。

たくさんなたぬきがおじいさんの家にやってくるようになったのです。

たぬきたちは、山で採ったキノコや山菜、川で捕った魚なんかを持ってきておじいさんを喜ばせました。

そして、いろいろなものに化けたり、街でみた演劇をおじいさんの目の前で演じたりして、楽しませました。

おじいさんはもうさびしくありませんでした。

ある日おじいさんが病氣にかかりました。

たぬきたちは人に化けてお医者さんを連れてきました

お医者さんはおじいさんの病氣は治すことができないといいました。

たぬきたちはとても悲しみました。

それでも、たぬきたちは一生懸命おじいさんの看病をしたのです。山で採った薬草をおじいさんに飲ませたりもしました。

しかし、おじいさんは死んでしまいました。

おじいさんは幸せだったとおもいます。

たくさん家族に見守られながらこの世を去ったからです。

たぬきたちはおじいさんの家で一晩中泣きました。

次の日、たぬきたちは自分たちの住む山に帰って行きました。

おじいさんの亡骸<sup>なきがら</sup>をつれて……

たぬきたちはおじいさんがさびしがないように自分たちのすみかの近くにおじいさんのお墓をたてたのです。

もしたぬきのすみかの近くにお墓があれば、そのおじいさんのものかもしれない。

おしまい

## （後書き）

拙い文章で読みづらかったかもしれませんが、最後まで読んでくれてありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3573c/>

---

おじいさんとたぬき

2010年10月12日03時03分発行